

2023年1月15日
年間第2主日
菊地功大司教 メッセージ

つい数日前に主の降誕を喜び祝っていたかと思うのですが、典礼の暦は先に歩みを進め、先日の月曜日は主の洗礼の祝日でした。そこで朗読されたマタイの福音は、イエスが洗礼者ヨハネから水の洗礼を受けた様子を描写するものでありました。

「罪のゆるしを得させるために悔い改めの」水による洗礼を受けることは、そもそも罪の汚れのない神であるイエスには必要のないことですが、「その洗礼は神の苦しむしもべとしての使命の受諾」であり（カテキズム 536）、罪人である人類に加わることで、水を通じてわたしたちをその贖いの技に与る道を開かれました。水による洗礼はイエスの公生活の始まりを告げています。

今日朗読されるのは同じ出来事について触れているヨハネ福音です。そこにおいて洗礼者ヨハネは、自分が水の洗礼を受けた方が誰であるのかを宣言しています。

まず第一にイエスは、「世の罪を取り除く神の小羊」であり、そして「神の子」であると洗礼者ヨハネは証言します。それによってヨハネはイエスの誕生の理由が、罪にまみれた人類の救いのためであることを明確にします。

さらに加えて洗礼者ヨハネは、自分の立場を今一度明確にします。つまりイエスは、「私よりも先におられた」方であり、自らが水の洗礼を受ける理由は、「この方がイスラエルに現れるため」であったのです。しかも洗礼者ヨハネがイエスを神の子と証しをした理由は、自分がそう思ったからではなく、自らの派遣の使命を識別し確実に認識していたからだとも証言しています。

いまわたしたち教会に必要なのは、現代社会にある洗礼者ヨハネであることです。わたしたちは自分の思いを伝えているわけではありません。自分が褒め称えられるために行動するわけではありません。すべては洗礼を通じてイエスの神性に与ったわたしたちに与えられている福音を告げしらせるという使命を果たすためであり、洗礼者ヨハネと同じく、わたしたちの言葉と行いを通じてイエスが現代社会に表されるようになるためです。わたしたちは、社会のなかにあつて、自らの言葉と行いが一体何を証ししているのか、今一度振り返ってみたいと思います。